



## 斜里町有林で植樹祭開催



5月27日、斜里町と網走南部森林管理署斜里営林事務所が主催、知床森林センター、斜里町森林組合共催の植樹祭が斜里町峰浜の町有林0.4haで開催されました。

当日の参加者は、峰浜緑の少年団を初めとして総勢200名に及びました。参加者は、山本斜里営林事務所長から植樹方法の説明を受けた後、ミズナラ1000本、アカエゾマツ500本ほか、全部で1500本余りを植樹しました。

当日は晴天に恵まれ、海別岳、斜里岳がくっきりと見え、風も穏やかな植樹日和となりました。

参加者の皆さんは、記念写真の撮影後、プレゼントの桃の苗木を受け取るとうれしそうに帰路につきました。

## 速報

### エゾシカによる樹皮食害の増加、鈍る。

今年4月に行ったイチイを対象にしたエゾシカ樹皮食害調査の結果を概報します。今年例年に比べエゾシカによるイチイの樹皮食害が極端に減少する結果となりました。

平成9年から12年までのイチイの樹皮食害増加率は4%程度でほぼ同じ割合で増加してきましたが、今年の調査では食害の増加率が0.5%と減少する結果となりました。

今までの調査の中で調査区内のイチイの約7割がエゾシカによる樹皮食害を受け、年々進む樹皮食害に頭を悩ませていましたが、今年、樹皮食害の増加が鈍ったことから今後の食害動向の経過がどうなるのか、積雪との関係も含め、更に調査を重ねていきたいと考えています。今回の調査の詳細は後日お知らせします。

# 知床の森から

平成13年7月発行 第73号

北海道森林管理局北見分局 知床森林センター  
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地  
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160  
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>

シンボルマーク「ゲラちゃん」



# 知床は今

知床は夏を迎え、いよいよ本格的な観光シーズンがやって来ました。

知床の山々ではトドマツ、エゾマツ、ミズナラ、イタヤカエデ、ダケカンバなど美しい若葉がきらきら輝いています。

海岸の砂丘にはエゾスカシユリ、ハマナス、ハマエンドウ等の色鮮やかな花々が咲き誇っています。

また、夏毛に衣替えしたエゾシカやキタキツネなどを目にすることも多くなります。

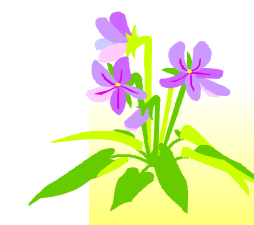
このような豊かな自然を求めて多くの観光客が知床を訪れます。



エゾスカシユリ咲きそろう  
以久科(イクシナ)原生花園



知床観光の目玉  
オシンコシンの滝



## 涛釣沼(トウツルトウ)周辺の海岸林で 小学校の森林教室

6月1日(金)、斜里町立越川小学校の遠足が行われ、当センターより職員を派遣し森林教室を開催しました。場所は、オホーツク海と涛釣沼(トウツルトウ)という名前の沼に挟まれた海岸防風林で、1年生から6年生までの生徒と先生あわせて10名を案内しました。

コースの周りにはトドマツやエゾマツの植林地、カシワやミズナラの天然林が広がっています。砂丘の向こうにはオホーツク海、そして知床連山の姿を見ることができます。

コース途中にはエゾノコリンゴの群落があり、白い花の甘い香りを楽しみ、また、スズラン、マイズルソウ、ヒメイズイ等の可愛い花を観察しました。

天然林では、カシワの葉がカシワ餅に使われていることやカシワとミズナラのドングリを見ながらその違いについて話



砂丘の向こうにはオホーツク海

しました。子供達は持参したスコープでカシワやミズナラの花を覗き込み、考えていた花のイメージとは違った花の形に感心していました。また、出芽して間もないカシワの若葉に触り柔らかい赤ちゃんの手に触れるような感触を楽しんでいる様子で若葉を見つけては何度も感触を確かめていました。

林の中から広い砂浜へ出ると子供たちは嬉しそうに走り回り、海辺の小さな生き物を捕らえては瓶の中に入れ観察したり、波打ち際で楽しそうに遊んでいました。

子供たちは興味のある物を見つけると、すぐにスコープを取り出して虫や花を熱心に観察するなど、大人では気付かないようなことに気付く子供たちの観察眼の鋭さには驚かされました。



スコープで熱心に観察

### 涛釣沼(トウツルトウ)周辺の海岸防風林

今回の場所では初めての森林教室でした。この涛釣沼(トウツルトウ)海岸林は、町に近く、林層の変化に富み、地形もなだらかで、歩くスキーにも適していることから、今後一年を通じて積極的に使っていく予定です。

## 第37回森とのふれあい

6月17日(日)、晴天の下、第37回森とのふれあい『自然観察と体験林業(炭焼き)』を開催しました。今回のイベントには「緑と水の森林基金」から助成を受けています。

参加者は北見市民など、男性10名、女性15名の計25名です。午前中は当センター敷地内に設置した簡易な炭窯で炭焼きを体験し、午後からは自然観察教育林に移動しポンホ口沼の周囲を一周しました

炭焼き窯はステンレス製の特注の炭窯です。参加者は職員から木炭の持っている水質浄化、土壌改良、調湿作用などの働きについて説明を聞いた後、鋸を使って原木を窯に入る長さ切る作業に取りかかりました。皆さんとても上手で、先生になって欲しいほどの腕前の人もいました。次は、原木を窯に詰め着火する作業です。今回は「火起こしセット」にチャレンジ。悪戦苦闘の末、火種ができるところまでいったのですが、炎が立ち上がるまでには至らず、やむなく文明の利器「ライター」で着火しました。最後の窯口を塞ぐための粘土塗りを終え昼食となりました。



悪戦苦闘する参加者

午後からは知床自然観察教育林に移動し、幻の沼と呼ばれるポンホ口沼の周囲約3kmを歩いて自然観察をしました。いつもの年なら7月上旬まで雪解け水を湛え残雪の羅臼岳を写す沼の姿が見られるのですが、今年は例年になく積雪が少なかったために、涸れあがっていました。しかし、地面には緑のヒメシダが敷き詰められ、その中に紫色の小さなスミレが一面に咲いていました。また、青空の中に羅臼岳がくっきりと映えていました。

森の中では職員からキノコの役割、倒れた木の働きの説明を聞いたり、トドマツの木の皮に付いた熊の爪痕を見て感嘆したりして、晴天の中、軽い汗を流し無事イベントを終えました。



今回のイベントは、7月26日(木)、知床自然観察教育林で「夏の森林に轟きの滝を探して」の予定です。詳しくは、ホームページ若しくは当センターまでお問い合わせ下さい。